

学校教育目標 未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

～ やさしい子:やさしいっばい かしい子:かっばい たくましい子:やる気っばい ～



和土小だより

さいたま市立和土小学校

令和7年12月1日(月)

12月号

〒339-0033 さいたま市岩槻区黒谷1353番地 TEL048-798-0208 / FAX048-798-8730

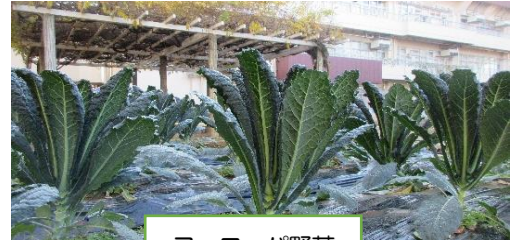
学校Webページ: <https://wado-e.saitama-city.ed.jp/> Eメール: wado-e@saitama-city.ed.jp

児童数 148名

よさや可能性を発揮し合う活動

校長 中野尾 奈都江

中庭の畑には、ヨーロッパ野菜が大きく葉を伸ばしています。給食に、ヨーロッパ野菜を使う日の朝は、栄養教諭が元気な葉を一枚一枚選んで摘んでいます。葉の色が濃いカーリーケール、カリフラワーのような食感のカリフローレ、黄緑色のカーボロネロは、栄養があるだけでなく、サラダやシチューの彩りとなっています。



ヨーロッパ野菜

さて、5年生は「館岩自然の教室」として、「自然の中からの挑戦状～全員で協力して、自然を調査しよう～」をスローガンとして、10月26日(日)～28日(火)に福島県南会津町の「館岩少年自然の家」に行きました。新和小学校と合同で、川魚さばき、焼き板体験、野山のフィールドワーク等を行いました。自然の教室のねらいは「自然体験を通して、五感で自然の素晴らしさを知ること」と「集団生活を通して自分の役割に責任をもち、友達と協力し合うこと」です。5年生は、天候の変化によるスケジュール変更にも臨機応変に対応し、宿泊部屋での自分の仕事をてきぱきと行っていました。

自然の教室に行く前(事前)と実施後(事後)の本校児童のアンケート結果を比べると、ねらいとする非認知能力(※)の項目について、全体的に大きな向上が見られました。その中でも特に向上した項目があります。まず、「自然を五感で感じ、『すばらしい』と思いますか」という「自然への理解」という項目で大きな向上が見られました。また、『自分でもやれる』『自分もみんなの役に立っている』と思いますか」という「自尊感情」についても、大きく向上しました。

どの学年も、校外学習の際には、児童がそれぞれの役割を果たしています。「出発式」では司会が進行を行い、校外学習の「めあて発表」や「引率の先生方の紹介」をします。見学地では、整列して人数確認をして教員に報告したり、リーダーを中心にグループ活動をしたりします。「到着式」では、児童の「感想発表」や「終わりの言葉」などがあります。どの児童も、代表で言葉を言う場面では緊張していますが、発表した後は「できた」という達成感のある笑顔を浮かべています。聞いている児童は、「すごい」「お疲れ様」と大きな拍手をして、発表した友達の頑張りを拍手で認め、笑顔がつながっていきます。

学校行事の「遠足・宿泊的行事」のねらいは、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」です。

児童が、互いのよさを認め合い、自分の可能性を発揮し合うためには、友達と一緒に挑戦し、協力し合い、笑い合い、励まし合うといった体験が大切だと思います。これからも、普段の学習活動そして学校行事等を通して、目指す学校像の一つ「自分を大切に、相手を大切に学び合う学校」を実現していきます。

(※)「非認知能力」とは、物事に対する考え方、取り組む姿勢、行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力のことです。(R7さいたま市教育行政方針より)